



安房拓心高校を選んだのは、同校出身の姉から「全国大会に出場できる可能性のある牛がいる」と聞き、どんな牛なのか見てみたいというのがきっかけでした。祖母が酪農を営んでいて、そこで牛と関わり、牛が好きになりました。はじめは牛が怖かったけれど、今は可愛いとしか思いません。部長として、経験の浅い1年生との接し方に気がつけました。今後は酪農系の専門学校に進学して人工授精師の資格を取得し、牛と直接関わる仕事がしたいです。(3年生、部長・飯田 葵さん)



校外学習では、近隣施設で開催される受精卵移植の勉強会に参加するなど、畜産を学ぶと同時に地域の方との関わりも大切に活動しています。



2年生で畜産系列を選んだ理由は食品の加工があるため、牛に興味はありませんでした。しかし2023年の3月の県共に手伝いで参加した際、準備の楽しさや牛とリードマンが綺麗に歩く姿を見て、牛の魅力に気がつきました。牛を実際に引いてみてリードマンの大きさが身に染みました。関東地区の共進会でもリードマンを務められれば、賞を獲得できるように頑張りたいです。将来は動物関係の仕事に就きたいです。動物看護師になることが夢ですが、卒業後も牛と関わりたいので、どちらかを叶えられるように努力したいです(3年生、石渡 公聖さん)

祖父が北海道で牧場をやっていたというのを聞いて、どんな仕事なのかと酪農に興味を持ち入部を決めました。入学した頃は調理関係に進むことが夢でしたが、今の将来の目標は牛に関わる仕事です。先日参加した北海道ウインターフェアでは、学校や地域では学べない実践技術を教えていただきました。出場を控えている関東地区の共進会では、教えてもらったことを活かして良い成績を取れるように頑張ります。(3年生、藪中 勇行さん)



小さい頃から動物関係の仕事に就くことが夢で安房拓心高校に進学しました。初めて牛を見たのは授業で、最初の2~3カ月はあまりの大きさから牛が怖かったです。2023年の関東地区の共進会は千葉県開催で、リードマンはできませんが、皆のサポートをして良い成績を残せるように頑張ります。卒業後は、小動物関係に進むので、将来はペットショップなどで働きたいです。(3年生、安田 知央さん)



概要
千葉県立安房拓心高等学校 畜産部
1年生9名、2年生1名、3年生10名、計20名
フリーストール牛舎(総頭数12頭、搾乳牛8頭、和牛5頭)
活動内容：“酪農発祥の地”と呼ばれる千葉県南房総市に位置する安房拓心高等学校。畜産部では哺乳、給飼、牛体の手入れなど日々の管理を行ない、目標である共進会に向けて準備を進める。ショーだけでなく牛の管理方法や牛との関わり方も学ぶ。
担当教諭：石村 行弘 先生

酪農に憧れや興味を抱き、実践をとおして酪農を学ぶ学生達は今、何に興味を持ち、どのような活躍をしているのか？
未来の酪農業界を担う期待の星を紹介！



安房拓心高校に赴任して13年になります。私自身、自宅が酪農を営んでいて、家での成果や新たな取り組みを学校にフィードバックしています。南房総市は酪農発祥の地なので、生徒には酪農を好きになってもらいたいです。生徒はガッツがあり、成長したいという気持ちで自主的に行動してくれるので、私はサポートをするだけです。各地で開催されるイベントに参加し、それをきっかけに高校の和を全国に広げ、県を超えた活動をしたいです。(石村 行弘 先生)

NO.13

千葉県立安房拓心高等学校

2020年から校内に人工授精所を設けて、近隣酪農家の牛を中心に1カ月に一度、10頭ほどの経膈採卵(OPU)を実施しています。生徒達も参加して、普段できないことを経験し学んでいます。



もともと動物が好きで、将来動物と関わる仕事がしたいという思いから安房拓心高校を選びました。2年になってから畜産部に入部しました。初めて共進会でリードマンを務めた際には、緊張から審査員すら見られなかったことを覚えています。今は余裕を持って牛を引けるようになりました。3年生は皆仲が良く、6人全員で全ブラに参加できたことが一番の思い出です。将来は遺伝改良関係の仕事に就きたいです。海外の牧場に行きたい気持ちもあるので、もっと勉強して夢を叶えたいです。(3年生、間宮 彩心さん)



小さい頃から動物が好きで動物と触れ合える安房拓心高校を選びました。陸上部に所属していましたが、2年生の後半に畜産部に誘われ、もともと牛に興味があったこともあり、すぐに入部を決めました。牛に足を一度踏まれた経験があり、牛との距離感は大切だと痛感しました。関東地区の共進会では皆のサポートをして良い結果を残したいです。卒業後は動物の専門学校に進学します。畜産とは離れてしまっていますが、ここで学んだ動物との信頼関係を活かしたいです。(3年生、山崎 好海さん)



学生牛部は今!